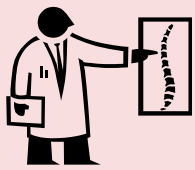


# 伊藤外科ニュース



## 80号

2011.1 発行

今年は、私の父、故伊藤彬男の喪中のため新年の挨拶を失礼させていただきます。

父の故郷は千葉県の九十九里浜の中央にあります。海は波が荒く、私が小学校の頃は泳ぎに行くと祖母に心配されました。一方で、昨年末に家内と泊まった千葉県の内房は、海が穏やかでした。今回は、館山の近くに宿をとり、太平洋と東京湾の内海の両方を見ることができました。

昭和の頃は、千葉に車で行くには京葉道路を渋滞の中何時間もかかりましたが、アクアラインの完成と高速道路の整備で非常に便利な旅行でした。



### 規則正しい食事を

さて、皆さんは年末年始をいかにお過ごしでしたか？

12月の中旬からはインフルエンザと急性の胃腸炎症状の患者さんが増えました。感染症予防のために手洗いとうがいは勿論のこと睡眠時間と食事には充分注意してください。

ところで、食事といえば最近は特に若い患者さんとの会話で気になることがあります。それは、ほとんど食事の時間や内容を気にしていないことです。食事の内容がお菓子であったり、栄養ドリンクであったりし、食べることに興味のない方が増えてきた印象があります。

規則正しいバランスのとれた食事は、体の栄養補給のためだけではなく、心の栄養にも必要と考えます。朝もゆっくと笑顔で食事ができるような時が来ると素晴らしいと思いますが、現実にはなかなか難しいことでしょうね。



### 胃炎の話

さて、今回は胃炎の話を少々いたします。胃炎には、要因が暴飲暴食や失恋などの急激なストレスによる急性胃炎（一般に強い症状があります）と、胃の膨満感や胃もたれなどの軽い症状のことが多い慢性胃炎があります。

慢性胃炎には、学問上様々なタイプの分類がありますが、中高齢者に多いピロリ菌感染症による慢性胃炎とそうではない胃炎に分けて考えるのが良いと思います。ピロリ菌による萎縮性胃炎は胃がんの発生母地と考えられています。

また、慢性胃炎の症状は多彩です。私が、胃カメラを行っていていつも感じる事ですが、胃の粘膜が非常に荒れているのに症状のない患者さんがいたり、またその逆のことがあったり、自覚症状と検査結果が異なり不思議です。急性胃炎は、症状も胃カメラによる胃のただれも強いので、薬による治療を行います。慢性胃炎は、胃カメラでよほど強い胃炎でなければ、また自覚症状がなければ現状では特に治療をいたしません、定期的な検査が望ましいと思います。

この文章を書いている正月は非常に寒く乾燥しています。皆さん、風邪をひかないで、健康でお過ごしください。

(院長)



## 今回の一冊

# 国家・宗教・日本人

司馬遼太郎×井上ひさし著

新しい年を迎えました。一弓の座右の銘(!?)「笑門来福」にちなんで、笑える本でも探そうかと思っていたのだが、昨年か三弓の本棚の隅で、「読めよ。宿題じゃ」と語りかけるようにワタクシの視野にチラチラ入り込んでいた一冊、『国家・宗教・日本人』で新年を始めましょ。

本書は司馬遼太郎、井上ひさしの対談集である。両氏については、いまさら説明の必要はあるまい。近年の数少ない本物の知識人であり、真摯な想いで「日本」「日本人」と向き合ってきた惜しむべき師たちである。「宗教と日本人」「『昭和』はなにを誤ったか」「よい日本語、悪い日本語」「日本人の器量を問う」、この4つのテーマで、両氏ががつつりと語り合っている。

巻末を見ると、対談が行われたのは1995年～1996年。今から16年も前に、多くの重要な提言がなされているにも関わらず、悲しいかな、日本社会も日本人もよき方向に向かっているとは思えない……。だが、逆をいえば、16年前のこの対談に今の日本人が考えるべきこと、向かうべき道のヒントがまだたくさん詰まっている！これがまず、一読した印象。

両氏が語ることを要約するような力は持ち合わせないので、「日本人の器量を問う」の章から、2011年の日本社会にとってもたいへん重要な一節を抜粋させていただくことにしよう。

**井上** 国の力とは何をものさしに割り出すのか、よくわかりませんが、最近、日本の国力は、敗戦のあとの自信を喪失していた時代と比べても、また東京五輪のあとと比べても、総体にみんなぼんやりしているというか、何か活力がなくなってきたという印象があります。

**司馬** それはありますな。

**井上** (一部略)政治家も官僚もすぐに動けない。「乃公出でずんば」というような人もいませんし、一方でどんどん失言して状況を悪くしていく人がたくさんいる(笑)。どうも国力が落ちてきているんじゃないかという心配があります。

**司馬** もう、だいたいこれで終わりなんでしょう。日本のいわゆる発展は終わり、あとはよき停滞、美しき停滞をできるかどうか。これを民族の能力をかけてやらなければいけない。

**井上** 美しき停滞……。それはいい言葉ですね。(中略)成熟ですね。

**司馬** あ、美しき成熟。それもいいですね。

仏語に「無常」という言葉がある。「常ならず」の世で、「停滞」——それも「美しき停滞」がどれほど難しいことか……!! 現代の日本人が、それこそ「民族の全能力」をかけて成しえなければ後がないというような、大きな大きな宿題である。嗚呼……。いや、新年だ。嘆く前に、とにかく笑っておこう。口角をキュッと上げて、「笑門来福」!!

(一弓)